

(参考資料)

資生堂、国際化粧品技術者会(IFSCC)で世界最多、通算 16 回目の「最優秀賞」を受賞
～ 口頭発表基礎部門で “肌内部のコラーゲンを肌を傷つけることなく可視化する技術” が受賞 ～

世界の化粧品技術者が集う化粧品科学技術で最も権威のある研究発表会「第 27 回国際化粧品技術者会大会」(IFSCC^{※1} Congress) が、2012 年 10 月 15～18 日南アフリカ共和国・ヨハネスブルグで開催され、資生堂は口頭発表基礎部門で「最優秀賞」を受賞しました。今大会には、世界 20 カ国から 221 のテーマ(口頭発表 63、ポスター発表 158)がエントリー^{※2}し、口頭発表基礎部門、口頭発表応用部門、ポスター発表部門の各部門でそれぞれ 1 組最優秀賞が選ばれました。

今回の資生堂の受賞は、第 24 回、第 25 回、第 26 回に続く 4 大会連続、また大会の間の年に開催される「IFSCC Conference」^{※3}を含めて、通算 16 回目^{※4}の IFSCC 最優秀賞となり、世界の化粧品メーカーのなかで他社の追随を全く許さない最多の受賞回数となりました。IFSCC での研究発表は、化粧品研究に携わる世界各国の第一人者によって、その研究内容と結果が評価されています。研究の先進性だけでなく、効果やメカニズムなど研究プロセスと内容の確かさに加え、その後の化粧品開発の発展に広く役立つことなど、多面的な評価から「最優秀賞」が選出されています。

今大会において、資生堂は最優秀賞を受賞した 1 件のほか 8 件、計 9 件の研究発表を行ないました。

※1 IFSCC: The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists(国際化粧品技術者会連盟)

※2 第 27 回 IFSCC 大会事務局が同 WEB サイトに発表したデータ(日本時間 10 月 3 日時点)

※3 「IFSCC Conference」は、若手研究者の教育や発展途上の加盟国の啓発を目的に奇数年に開催されています。2003 年から最も優れた研究発表 1 編を最優秀賞として表彰し、資生堂は通算 2 回の最優秀賞を受賞しています。

※4 付表に資生堂が受賞した最優秀賞の一覧を掲載

「最優秀賞」受賞テーマの概要

【受賞テーマ名】

新しいコラーゲン可視化技術を用いた光加齢に伴うヒト真皮構造変化の非侵襲評価

【受賞者】

資生堂リサーチセンター・スキンケア研究開発センター

山下 豊信(やました とよのぶ)副主任研究員

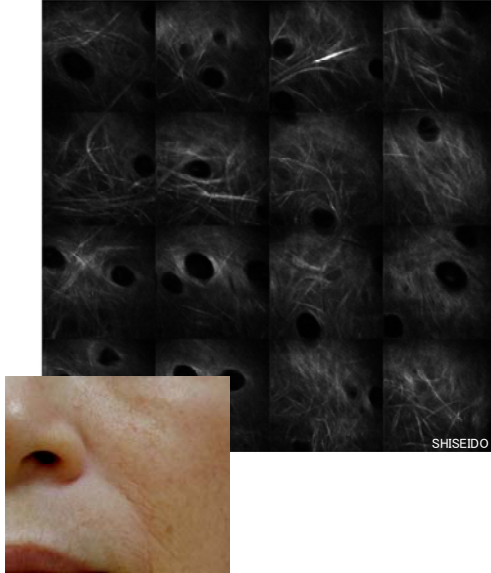
【受賞テーマの概要】

レーザー光を使って画像化する最新のイメージング技術を応用し、肌を傷つけることなく肌内部のコラーゲンの状態や加齢変化を可視化することに成功した。

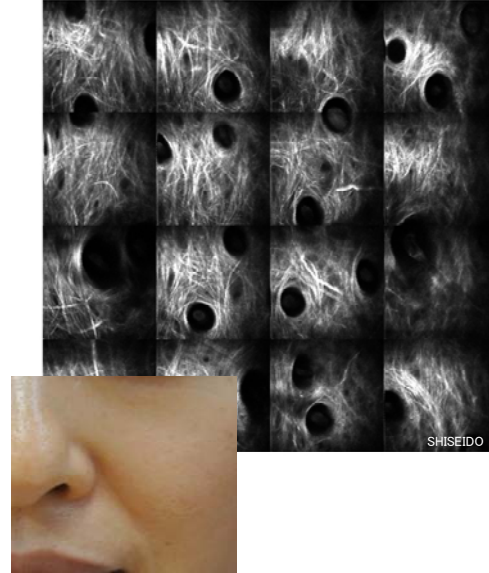
(具体的な研究成果の一例については次頁に掲載)

真皮コラーゲンに対する紫外線の影響

UVを多く浴びた肌
50代(運動日焼け)



UVをあまり浴びていない肌
50代(日焼けなし)



真皮コラーゲンの可視化画像

(白くはっきり写っているほうがコラーゲン線維はダメージを受けていない)

肌の外観からはわからない、ヒトの肌内部(真皮)のコラーゲン線維の状態を、最新のレーザー光・イメージング(画像化)技術を応用し、肌を傷つけることなく直接、可視化することに成功しました。この新しい技術を用いて女性の肌を評価した結果、紫外線や加齢により、コラーゲン線維が顕著に減少している(ダメージを受けている)ことが確認され、肌のハリや弾力の低下につながっていることが示唆されました。

今回の成果をベースに、新しい抗老化スキンケアの価値創出、効果成分の評価などの研究を進めていきます。

IFSCCと資生堂

IFSCC(国際化粧品技術者連盟)は、化粧品技術発展のために国際的な情報の共有化を目的として、1959年に8か国の化粧品技術者会によって結成され、現在では47カ国、約15,000名の会員を擁する組織となっています。2年に1回、偶数年に開催される大会「IFSCC Congress」には、200前後の研究発表と1,000名を超える参加者があり、名実ともに化粧品や肌などに関する世界で最も権威のある研究発表の場となっています。

資生堂はこれまで、奇数年に開催される「IFSCC Conference」の2回を含めて、今回で通算16回の最優秀賞を受賞し、国内外の化粧品メーカーとして最多です。

このことは、資生堂の研究開発が世界の化粧品業界をリードするとともに、他社には真似のできない安心・安全、高品質な商品を創出してきた技術の積み重ねが高く評価されてきた結果と言えます。

【付表】

1. IFSCC Congress における資生堂の最優秀賞の受賞歴

受賞回数	開催年	大会	開催地	受賞テーマ名	発表形式
1	1976	第9回	ボストン	アミノ酸又はそれらの塩によって安定化された油中水型エマルジョンに関する研究と応用	口頭
2	1986	第14回	バルセロナ	新しい有色真珠光沢顔料の開発	口頭
3	1988	第15回	ロンドン	汗臭成分の解明とその新規消臭剤の開発	口頭
4	1990	第16回	ニューヨーク	新規な W/O 乳化型ネイルエナメルの開発	口頭
5	1992	第17回	横浜	フケ抑制剤の評価と開発に関する研究	口頭
6	2000	第21回	ベルリン	皮膚基底膜ケアに関する研究	口頭
7				水で乾くエナメルの開発	ポスター
8	2002	第22回	エジンバラ	新規肌あれ抑制成分スキンケアパウダーの開発	口頭
9	2006	第24回	大阪	新規毛穴収縮薬剤グリシルグリシンの開発	ポスター
10	2008	第25回	バルセロナ	pH 応答性高分子を利用した高撥水、高洗浄性粉末の開発とサンスクリーン製剤への応用	口頭
11	2010	第26回	ブエノスアイレス	NMF 産生酵素の発見と新たな肌あれメカニズムの解明	口頭
12				2 相分離機構を用いたカップに付かない口紅の開発	口頭
13				オイルを透明なとろみ状にジェル化する新規な自己組織構造体と化粧品への応用	ポスター
14	2012	第27回	ヨハネスブルグ	新しいコラーゲン可視化技術を用いた光加齢に伴うヒト真皮構造変化の非侵襲評価	口頭

2. IFSCC Conference における資生堂の最高賞の受賞歴

受賞回数	開催年	開催地	受賞テーマ名	発表形式
1	2005	フィレンツェ	顔の“たるみ”を光学的に補正する粉体「ワ板効果パウダー」の開発	口頭
2	2011	バンコク	新たな形状を特長とした目元用パッチの有用性について	口頭